



7 国立京都国際会館における5,000人規模の多目的ホールへの早期拡充整備，未来を見据えた施設整備等

(法務省，財務省，文化庁，国土交通省)

高い国際競争力と世界への発信力を持つ都市として，かけがえのない日本の歴史，伝統，文化，心を，絶やすことなく未来に引き継ぐ「文化の強靱化」のための中核的役割を担い，その役割を果たすため，次のとおり求めます。

提案・要望事項

市・府共同提案 (1)

- (1) 日本文化を世界に発信するための国立京都国際会館における5,000人規模の多目的ホールへの早期拡充整備
- (2) 元離宮二条城や京都市美術館の再整備に対する財政支援
- (3) 伝統芸能を創造普及するための「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）」及び日本の歴史・文化を総合的に理解でき，日本の文化力を世界に発信する「国立京都歴史博物館（仮称）」の創設
- (4) 未来の京都のまちづくりを見据えた京都刑務所(山科区)の移転
～市街地に位置し，将来の京都の発展にとって大きな可能性を有する京都刑務所敷地の，より一層の有効活用に向け，移転検討を要望～

国際会館 5,000人規模の多目的ホールへの早期拡充整備

現状 ◆ 国内外の主要な国際会議場の状況

国名	会議場名	メイン会議場 収容人数	メイン展示場 面積
日本	国立京都国際会館	1,840名	3,000㎡
日本	福岡国際センター・マリンメッセ	6,000名	9,100㎡
日本	国立横浜会議場(パシフィコ横浜)	5,000名	20,000㎡
日本	東京国際フォーラム	5,000名	5,000㎡
韓国	コエックス会議・展示センター(ソウル)	7,000名	10,000㎡
中国	香港会議・展示センター	8000名	20,000㎡
シンガポール	シンガポール国際会議・展示場	100名	12,000㎡
オーストラリア	メルボルン国際会議場	5,500名	30,000㎡

千名が収容でき、それに見合う展示ができる多目的ホールが世界のスタンダード

現在の施設整備(2,500人規模)の概要

- 主要室等
展示ホール(2,000㎡:2,500人規模)
- 主なスケジュール
敷地調査：26年7月～12月
設計：26年9月～28年2月
工事：27年度～30年度(予定)



課題 ◆ 国立京都国際会館のスペース不足により、開催が見送られた国際会議の事例

年度	国際会議名	要請スペース	開催地
25	国際小児科学会	5,000人規模の会議スペース, 12,000㎡の展示場	オーストラリア
25	国際腎臓学会	3,000人規模の会議スペース, 10,000㎡の展示場	香港
25	世界肺癌学会	5,000人規模の会議スペース, 10,000㎡の展示場	オーストラリア

5,000人規模の多目的ホールを整備することによる効果



2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて国際会議の受入れの増加が見込まれる中、**日本文化の神髄ともいべき京都**で国際会議をより多く開催することで日本文化を更に世界に発信することが可能に！



国際貢献の機会を増やし、国際社会における日本の国力向上に大きく寄与することができる！